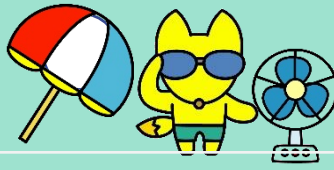


# ハートフルなんぶ

2024. 8月号 vol. 305



長野市立南部図書館

〒388-8006

長野市篠ノ井御幣川1201番地

TEL (026) 292-0143

FAX (026) 292-0559

<https://library.nagano-ngn.ed.jp/>

## 夏期学習室のご利用について

夏休み期間中は平日も2階大会議室を学習室として利用できる日があります。

### 学習室利用時間

午前10時～午後5時30分まで  
(時間厳守)



※蓋つきの飲み物以外の飲食を禁じます。

(昼食スペースはありません)

※マスクの着用、手洗い、消毒等、感染予防にご協力ください。

※学習室をご利用いただける日は変更となる場合があります。

南部図書館		8月学習室開放日				
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
				開放	開放	開放
4	5	6	7	8	9	10
開放		休館日		開放	開放	開放
11	12	13	14	15	16	17
開放	開放	休館日	開放	開放	開放	開放
18	19	20	21	22	23	24
開放		休館日				開放
25	26	27	28	29	30	31
開放		休館日			休館日	開放

※ 学習室開放時間 午前10時～午後5時30分まで(時間厳守)  
※ 蓋つきの飲み物以外の飲食はできません。(昼食スペースなし)

- 『明智恭介の奔走』 今村 昌弘／著 東京創元社 《Fイ》
- 『言霊の幸う国で』 李 琴峰／著 筑摩書房 《Fリ》
- 『消費される階級』 酒井 順子／著 集英社 《914.6サ》
- 『なんで死体がスタジオに!?!』 森 バジル／著 文藝春秋 《Fモ》
- 『難問の多い料理店』 結城 真一郎／著 集英社 《Fユ》
- 『バタン島漂流記』 西條 奈加／著 光文社 《Fサ》
- 『めでたし、めでたし』 大森兄弟／著 中央公論新社 《Fオ》
- 『プラチナハーケン1980』 海堂 尊／著 講談社 《Fカ》
- 『死蠟の匣』 榎木 理宇／著 KADOKAWA 《Fク》
- 『人質の法廷』 里見 蘭／著 小学館 《Fサ》
- 『四つの白昼夢』 篠田 節子／著 朝日新聞出版 《Fシ》
- 『奪還』 城内 康伸／著 新潮社 《210.7シ》
- 『女性法律家』 三淵 嘉子／執筆代表 有斐閣 《327シ》
- 『疲れていても、おいしいものが食べたい!』 若山 曜子／著 家の光協会 《596ワ》
- 『はじめてのワイヤーどうぶつ』 gogo3jino／著 産業編集センター 《756コ》
- 『できる人のパソコン仕事術なんと効率10倍!』 パソコン博士 TAIKI／著 日経BP 《007ハ》
- 『近代仏教とは何か』 碧海 寿広／著 青土社 《182オ》
- 『うんこ化石』 泉 賢太郎／著 飛鳥新社 《457イ》
- 『秒で美脚』 優木 まおみ／著 KADOKAWA 《595ユ》

### 今月の 新刊案内



『中央分水嶺を旅する』 栗田 貞多男／著 世界文化ブックス 《B291.09ク》

『山の怪談』 岡本 綺堂／[ほか]著 河出書房新社 《388ヤ》

『ようこそ!富士山測候所へ』 長谷川 敦／著 旬報社 《Y451ハ》

『全国山の美術館と博物館』 G.B. 《706セ》

『絶景山』 パイインターナショナル 《748セ》

『地図アプリで始める山の地図読み』 佐々木 亨／著 山と溪谷社 《786サ》

『ヒロシのひとりキャンプのすすめ公式本』 ヒロシ／著 Gakken 《786ヒ》

『山と食欲と私』公式鮎美ちゃんとはじめる山登り』 日々野 鮎美／著 新潮社 《786ヒ》

『神坐す山の物語』 浅田 次郎／著 双葉社 《Fア》

『呼ぶ山』 夢枕 獯／著 メディアファクトリー 《Fユ》

『死に山』 ドニー・アイカー／著 河出書房新社 《786ア》



# ESSAY



## 「山に囲まれた生活」

寄稿:ひよこ豆

8月11日は山の日。山と言っても登る対象としての山もあれば、遠くから眺めたり写真や絵などにする山もあるし、実際に住む場所としての山もあります。趣味で登山をする人もいるけど、私は山には登りません。平地から坂道をあがった先に山と名づけられた地域があつて、千曲市の姨捨山だったり篠ノ井の茶臼山などは行くことがあります。まだ茶臼山動物園が無かつたころ、山に化石を探しに行つたことがあります。

私は川中島町という平野部に住んでいますが、どの方向を見ても山が見えています。山は時期によって姿が変わり、雪に覆われる時もあるれば、緑の葉に覆われたり、紅葉したり、流れる霞に隠れたり、季節によって変化するのが面白いです。また、車で移動すれば見える山の景色も変わり、その点では長野と言う盆地に住めることはありがたいなあと思います。

たまに新幹線で東京に行きます。長野駅を出発してしばらく行くと関東平野に出て、まっ平な田園農地ばかりの中を走り、山はかなり遠くにしか見えません。広々として雄大と言えば雄大なんだろうけど、単調でなんだかつまらない。長野の方がいいなあと感じます。

昨年は、小田切地区の交流センターで文化祭があると新聞記事で知り、そこでのある展示物を見たかったので車で行つたことがありました。私の車にはカーナビがないし、スマホも持っていなかつたので、前日にパソコンで地図を調べ、地図帳を頼りに安茂里からどんどん北に向かつて山道を進んでいきました。本当にこの道で大丈夫なのかと不安なまま曲がりくねつた薄暗い道を行くと、なんとか目的地にたどり着き、ほつとしました。それにしても、よくこんな山奥の集落に人が住んでいるものだなあと、同じ長野市民として、普段平地に暮らしている私には驚きでした。その地からは善光寺平なんて見えません。先祖代々、その場所に住んでいるのだらうけど、もし自分がこういう山奥に生まれていたら、また違つた人生を歩んでいたかもしれません。



### 2024年8月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

### 2024年9月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					



開館時間:午前10時~午後6時

■は休館日です